

# 熊本大学教育学部附属 教育実践総合センターニュース

No. 37 2012.10.31

ホームページ <http://www.educ.kumamoto-u.ac.jp/~jissen/index.htm>



## ユア・フレンド事業研修会（教育学部）

教育実践総合センター長に就任して.....	センター長	中川 保敬	2
教育実践総合センター運営委員になって.....	国語教育	河野 順子	3
教育実践総合センターへの期待.....	家政教育	宮瀬 美津子	3
教育実践総合センター運営委員になって.....	音楽教育	國枝 春恵	4
運営委員に就いて.....	教育学科	堀 浩太郎	5
教育実践総合センターの運営委員として.....	養護教育	松田 芳子	5
附属中の研究のあゆみと教育実践総合センターの先生方.....	附属中	小田 和也	6
センター日誌.....			7
編集後記.....	センター専任教員	吉田 道雄	8

# 教育実践総合センター長に就任して

センター長 中川 保敬

2012年4月より、堀畑正臣前センター長の後任として、熊本大学教育学部附属教育実践総合センター長を拝命致しました中川保敬です。宜しく願いいたします。大学での所属は生涯スポーツ福祉課程で、その中でも専門はスポーツ経営学、陸上競技です。平成23年8月に40年ぶりにスポーツ基本法が公布され、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利である」とされました。このことから21世紀は、スポーツの実践を図る時代であるといえます。少しでも地域や学校をめぐるスポーツの振興に貢献できればと考えております。

昨年まで、3年間附属小学校長を併任しておりましたので、京町地区の教育実践総合センターは近い存在でした。その時から教育実践総合センターの先生と附属小学校の論理科カリキュラムの開発への取り組みなどアドバイスを戴き、連携を深めていければと考えておりました。このことは、任を受けたことでより学部と附属学校園との連携推進に教育実践総合センターの果たす役割の重要性を実感しております。

また、教育実践総合センターは、教員免許状更新講習実施委員会（教育学部）の責任担当となり、特に必修領域の講習への開講においてはセンターの役割が高まってきたことを感じております。今回、センター長を拝命して、教育実践総合センターに寄せられる様々な希望・要望をしっかりと受け止め、遂行し

ていく所存であります。

さて、教育実践総合センターは、これまで「教育実践」に役立つことに焦点を当て、様々な活動を展開して参りました。これまで、①学部・附属学校研究連携推進委員会、②教育学部・熊本市教育委員会連携推進委員会、③フレンドシップ事業、④ユア・フレンド事業、⑤インターンシップ事業、⑥教員免許状更新講習実施委員会と、⑦教員免許更新講習の担当（5講座及び追加講座の担当）、⑧教育実習事後指導、⑨『教育実践研究』の発行、⑩教育シンポジウム等を行って参りました。

（尚、フレンドシップ事業、ユア・フレンド事業、インターンシップ事業）は、熊本市教育委員会との連携事業で、昨年度はユア・フレンド事業開始10周年記念行事も終わり、さらに充実した事業として熊本市教育委員会と連携していくことが期待されております。

教育学部の平成27年までの中期目標・中期計画の中で、教育学部の先生方と連携を深め、広げ、附属学校園との共同研究研究として先進的カリキュラムモデルの開発、教育学部生の教育実習支援等も含め、文字どおり教育における総合的実践のセンターとして機能していくことが期待されていると思います。

今後ますます、県・市教育委員会との連携や教育学部、附属学校園との連携を強化し、教育実践総合センターの役割をさらに高めていきたいと思っております。皆様方からご意見ご指導を賜れば幸いです。宜しく御願いたします。

# 教育実践総合センター運営委員になって

国語教育 河野 順子

本年度、教育実践総合センターの委員となりました河野順子です。専門は国語科教育です。

本年度から熊本大学教育学部附属小学校校長を併任しておりますので、実践センターは大変近い存在となりました。

教育実践総合センターとの関わりは、2011年度の文部科学省の指定を受けた「小1プロブレム解消のためのOJTを推進するリーダー養成」を目指した「教員研修モデルカリキュラム開発」のための教員自主研修講座でお世話になりました。これは、熊本県教育委員会との連携により、菊池教育事務所管内の小学校教諭を対象に開催されました取り組みです。私はこのうち、10月27日の幼保小連携に携わりました。そこで、幼保小連携の実践上の工夫や課題につ

いて国語科教育研究者の立場から発表をさせていただきました。

教育学部において、大学と実践現場をつなぐ教育実践総合センターの役割は大変重いと考えます。委員になりましたことを契機に、あらためて、大学と実践現場との連携のありかたについて、既に進展しております教育学部の取り組みであります「新学習指導要領キックオフシンポジウム 論理的思考力・表現力育成のための教科間連携・幼小中連携によるカリキュラム開発」（熊本県教育委員会後援、熊本市教育委員会共催）の運営などとも連携させながら考えていきたいと思えます。

どうぞ宜しくお願いいたします。

## 教育実践総合センターへの期待

家政教育 宮瀬 美津子

平成24年度4月より、教育実践総合センター運営委員(理系)を務めることになりました。初めての委員ですので不慣れですが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

私の専門は教科教育(家庭科教育)ですが、近年は、「持続可能な社会の形成と家庭科教育の果たす役割について」を研究テーマとして、中学校や高等学校の家庭科学習プログラムの開発や授業研究を行っています。現職派遣大学院生や国内留学の先生の指導を通じて、生徒の反応

を直接確かめながら研究を進めていくことの意義を強く感じ、学校現場と学部を繋ぐセンターの重要性を再認識しています。

また、ゼミの学生・院生にはフレンドシップ事業やユア・フレンド事業、インターンシップ事業への参加経験者が多く、毎年大変お世話になっております。これらの事業を通じて教員志望の意思をより強固にし、教職への理解を深めていく姿を間近に見ていますと、学部の授業や教育実習だけでは得られない実践的な「教員と

しての力量形成」に繋がっていると確信することができます。卒業後はほとんどの学生が教職に就いていますが、今後はセンター事業の良き理解者として積極的に協力してくれるのではないかと思います。

教育委員会や附属学校園との連携事業など、

センターの果たすべき役割はますます大きくなっています。運営委員のひとりとして微力ではありますが精一杯お手伝いをさせて頂きたいと思うと同時に、これらの連携事業から多くのことを学ばせて頂きたいと期待しております。

## 教育実践総合センター運営委員になって

### 音楽教育 國枝 春恵

私は、今年度、初めて教育実践総合センター運営委員になりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。実践センターの様々な活動については、活動報告書、教授会等でのアナウンスで大よそを知っていたとはいえ、今回、その広範囲で充実した内容をあらためて認識した次第です。

皆様、ご存じとは思いますが、平成9年度から始まったフレンドシップ事業では、学生が子どもたちとともにふれあい、真の「こども理解」を深めて、実践的な指導力を身につけることをねらいとしています。現在、70名程の「Make Friends」サークルは、熊本市内の公民館等の社会教育施設や熊本県、熊本市教育委員会生涯学習課等と連携・協力しながら、自主的に様々な楽しい企画（ファッションショー・クッキング・夏キャンプ・ハロウィンやクリスマスの準備・お正月の餅つき等）を実行しているようです。

ユア・フレンド事業は、平成14年度から熊本大学教育学部と熊本市教育委員会が連携して開始されました。当時、この協定事業がスタートする際の教授会討議が思い出されます。今や、全国10万人以上の不登校児童・生徒への

対策として、市教育委員会が熊本大学教育学部にユア・フレンドとして活動する学生の推薦依頼を行い、大学側から児童・生徒の話し相手、相談相手として学生の派遣を行っています。ユア・フレンドとは、「子どもと一緒に居て、子どもの考え、思いを認め、寄り添ってあげる」お兄さん、お姉さんであり、子ども達の学校への復帰を目指してはいない！とのこと。音楽科の学生達も、ユア・フレンドの役割をしているようです。

この他に教員インターンシップ事業、スクールライ事業、そして教育実習を終えた4年生を対象に「教育実習事後指導」の講座等、実践センターには数えきれない程の事業があります。現代社会のニーズに相応しい教育センターとして、多くの課題を実践的に研究されているその活動は、教育学部の根幹を担う取り組みと言えましょう。会議に参加させて頂きまして、私たち各学科の教員が、実践センターの活動についてもっと積極的に関わり、連携する必要性を感じました。後期は、彼女らの「メイクフレンドズ」活動や「ユア・フレンド」意見交換会等に注目し、音楽的な面でサポートできることが

あれば、関わっていきたいと思っております。

## 運営委員に就いて

教育学科 堀 浩太郎

初めて実践センター運営委員になりました教育学科の堀浩太郎です。専門は教育学の基礎部門である教育の歴史(日本教育史)を担当しています。現在の研究テーマは、日露戦争前後における地方改良運動と学校(小学校・師範学校)の関わりがどうであったかを明らかにすることです。ですから私の研究成果を直接教育現場に還元できるとは考えていません。そこで、少しは現場の教育実践のお役に立てればと、熊本戦争遺跡研究会を2004年立ち上げ、熊本県下のあちこちに残っている戦争遺跡の発掘調査を重ねてきました。成果の一部をブックレット状の本としてまとめたものが、以下の3点です。

1. 『子どもと歩く戦争遺跡 熊本編Ⅰ』2005年8月 96頁
2. 『子どもと歩く戦争遺跡Ⅱ 熊本県北編』2006年8月 118頁
3. 『子どもと歩く戦争遺跡Ⅲ 熊本県南編』

2007年8月 171頁

本のタイトルに「子どもと歩く」を付したのは、平和な生活を戦争遺跡を通して子どもたちに伝えたい、また、フィールドワークをする際、携帯・参照に適したブックレット状とし、写真や図も多く取り入れました。しかし何より力をいれたのは、教育実践例を掲載したことです。平和を今後も維持していけるように、ベテランのみならず若い教員のものまで実践例を収めました。これらの実践例に触発されて多くの実践が生まれることを期待してやみません。

最後に、上記の教育実践例を除き、熊本県下の戦争遺跡を1冊にまとめたものが4に示す本です。これは書店扱いとしましたので入手は簡単かと思えます。ちなみに2010年度の熊日出版文化賞をいただきました。

4. 『戦後65年 熊本の戦争遺跡』 2010年12月 198頁 創想社

## 教育実践総合センターの運営委員として

養護教育 松田 芳子

今年度4月より教育実践総合センターの運営委員を担当させていただくことになりました。2度目の運営委員となります。どうぞよ

ろしくお願いいたします。

私とセンターの関わりは、とても長いものがあります。現センターが、附属教育実践研究指

導センターの時から、度々利用させていただいております。私が教員として初めて担当した卒業生と一緒に、教材 VTR の作成を行うためにセンターにある専用の VTR 編集機器を度々利用させていただきました。今は、パソコンでも簡単に VTR 編集ができるようになりましたが、平成元年当時、専用の VTR 編集機器でナレーション(音声)を入れ、画像編集を行いました。その時作成した教材 VTR (VHS テープですが・・)は今でも大切な宝物です。その後も、センター主催の各種行事に参加させていただいております。

現在、センターは大学と学校現場、地域をつなぐ大きな役割を担い、様々な事業が展開されています。運営委員会に参加し、多岐にわたる

事業を再確認させていただきました。

その一つであるユア・フレンド事業には、養護教諭養成課程の学生が多数参加させていただき、不登校児童生徒理解や支援のあり方を学ぶ貴重な体験の機会になっています。センターの先生方には、学生がユア・フレンド事業に参加するにあたり、研修会等で大変お世話になっております。また、教員インターンシップにも本課程学生が多数参加させていただいております。

これからも、大学と学校現場と地域をつなぐセンターの役割はますます重要となってくることと思います。微力ながら、養護教育からの委員としてセンターの運営に関わらせていただきたいと思っております。

## 附属中の研究のあゆみと 教育実践総合センターの先生方

附属中 小田 和也

私はこの4月に13年ぶりに附属中に帰って参りました。前回は、平成6年4月から平成11年3月まで、国語科の教諭として勤務させていただきました。学習指導要領の改訂を控え、これから横断的・総合的学習が導入されるという大きな流れの中で、これからの時代にどのような学びが必要とされるか、試行錯誤した5年間でした。

その5年間の附属中の研究を中心として、形にし、世に問うた研究書籍がここにあります。

- ①「リーダーシップと自己教育力 特別活動・道徳の授業実践」(平成8年6月 明治図書出版)

- ②「すぐできる中学「総合的学習」プラン集 一全10プラン全発問・全指示 中学授業のビッグバン」(平成10年7月 明治図書出版)

- ③「すぐできる中学「総合的学習」プラン集 (第2集)「未来創造科」編」(平成12年4月 明治図書出版)

これらの研究に大きく関与していただき、指導・助言、叱咤・激励していただいたのが、吉田道雄先生と中山玄三先生です。

- ①では、リーダーシップ理論を基に中学校の特別活動を、コールバーグの道徳性発達理論を基に道徳の時間を研究しました。附属中の研究

の歴史の中でも、特色のある研究だったのではないのでしょうか。吉田先生にはいつも笑顔で丁寧に理論面のご指導をいただきました。その後、公立の現場でもPM理論や構成的グループエンカウンターによる実践が急速に普及していき、私も附属中で実践した経験がたいへん役に立ちました。

また、②・③では、中山先生に「未来創造科」の立ち上げとカリキュラム評価の理論と実際において厳しくご指導をいただきました。当時はまだ横断的・総合的学習がどのような形で新学習指導要領に盛り込まれるか不明でしたが、後の「総合的な学習の時間」の一つのスタイルが

確立された研究でした。この研究が現在の附属中の「未来創造社」の実践に繋がっています。当時は、私も「未来創造科」の福祉コースを担当しており、毎週教育実践総合センターの講義室等で授業をさせていただいたのが楽しかった思い出です。

現在、附属中では、平成24・25年度、国立教育政策研究所から教育課程の研究指定をいただき、「『未来を拓く思考力・判断力・表現力』の育成」をテーマに研究に取り組んでいます。これからの子どもたちに求められる学びを追究するため、これからもご指導・ご助言をどうぞよろしくお願いいたします。

## センター日誌

### 平成23年度

3月22日 第76回運営委員会

### 平成24年度

4月14日 ユア・フレンド事業説明会  
(教育学部)

5月11日 市教委連携推進委員会

5月12日 ユア・フレンド事業研修会  
(教育学部)

5月15日 ユア・フレンド事業研修会  
補講 (教育学部)

5月23日 第77回運営委員会

6月10日 免許状更新講習 (中山)

6月14日 公開講座 (リーダーシップ・  
トレーニング) 熊本~15日まで

6月23日 免許状更新講習・玉名 (田中)

6月23日 4年次教育実習事後指導  
(~24日まで)

6月30日 4年次教育実習事後指導  
(~7月1日まで)

7月17日 熊本サイコドラマ研究会  
第2回心理劇ワークショップ

7月22日 免許状更新講習・八代 (中山)

7月29日 免許状更新講習 (田中)

8月3日 免許状更新講習 (田中)

8月5日 免許状更新講習・天草  
(吉田・高原・中山) ~7日まで

8月17日 免許状更新講習・天草 (吉田)

8月21日 公開講座 (リーダーシップ・  
トレーニング) 東京~22日まで

8月23日 合志市サマースクールサポート  
(メイクフレンズ) ~29日まで

8月26日 免許状更新講習・人吉 (中山)

8月30日 九州地区公民館研究大会 (県劇)  
(メイクフレンズ) ~31日まで

8月31日 心理劇ワークショップ

	(～9月1日まで)		研究集会(鹿児島大学)
9月9日	免許状更新講習(吉田)		(メイクフレンズ参加)
9月11日	2年次実習(～27日まで)	10月16日	熊本サイコドラマ研究会
9月14日	公開講座(熊本・フォロー)		第3回心理劇ワークショップ
9月29日	ユア・フレンド事業第1回 意見交換会(教育学部)	10月27日	免許状更新講習・阿蘇(吉田)
10月6日	免許状更新講習・八代(高原)	10月28日	免許状更新講習(中山)
10月6日	免許状更新講習(吉田)	11月10日	免許状更新講習 (吉田・高原・中山)～11日まで
10月6日	平成24年度日本教育大学協会	11月13日	第78回運営委員会

センター長の堀畑正臣先生が任期の途中で教育学部副学部長にご就任になりました。このため新しく中川保敬先生がセンター長に選任されました。中川先生は同じキャンパス内の附属小学校長の任を終えられたばかりですが、校長の立場からセンターとのおつきあいもあり、これまでの活動にも十分にご理解いただいています。▲今年度は運営委員が交替する年に当たります。そこで新たに運営委員になられた先生方から原稿をいただきました。教育だけでなく、あらゆる状況が逼迫しつつある今日、センターはセンターなりに何ができるかを探求し、その実践にチャレンジし続けていきます。そのためにも新運営委員の先生他の強力なサポートには心から感謝しております。▲さらに専任の高原朗子先生が附属特別支援学校長に就任されました。お忙しい中でもセンター活動にもエネルギーを注いでいただいています。▲また熊本市教育委員会と教育学部の連携事業の一つである「ユアフレンド事業」が10周年を迎え1月28日(土)にはシンポジウムを開催しました。そのほかにも、「フレンドシップ事業」や「インターンシップ事業」など、センターが関わる仕事も順調に進んでいます。これからもセンター活動をご支援いただきますようお願い申し上げます。(吉田記)

熊本大学教育学部附属教育実践総合センターニュース

(題字 森山秀吉元教育学部教授)

No.37 2012.10.31

〒860-0081 熊本市中央区京町本丁5-12 Tel 096-325-3282 Fax 096-352-3468